

Benesse® 教育研究開発センター

子どもの ICT利用実態調査

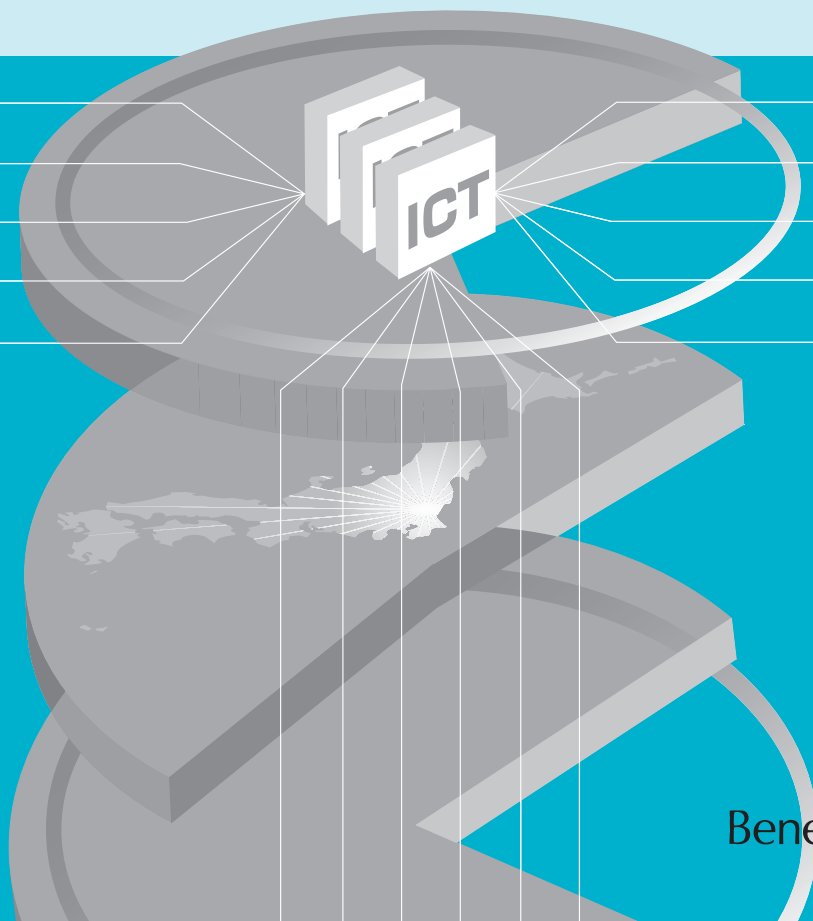
—小・中・高校生の携帯電話やパソコン利用の意識・実態を探る—

1990年代後半以降、携帯電話やパソコンといった、いわゆる「ICT※メディア」は急速な発達・普及を遂げ、今や生活するうえで欠かせないものになっています。ICTメディアは、子どもの世界にも浸透してきており、その影響については社会的にも大きな関心事になっています。

こうした社会状況を背景に、Benesse教育研究開発センターでは、小学4年生から高校2年生までのおよそ1万人を対象として、子どもたちのICTメディアの利用の実態や、子どもたち自身のICTメディアへの思いをとらえることを目的に、調査を実施しました。

調査結果をもとにして、子どもとICTメディアのかかわりについて、一緒に考えてみませんか。

※ICTとは、Information and Communication Technologyの頭文字で、情報通信技術の総称です。



● 調査概要

◆ 調査テーマ 小・中・高校生のICTメディアの基本的な利用実態と意識

◆ 調査方法 学校通しの質問紙による自記式調査

◆ 調査時期 2008年9月～11月

◆ 調査対象 小学4年生～高校2年生 合計10,267人（有効回答数）

抽出方法 市区町村の人口規模および人口密度を考慮した有意抽出法

※小・中学生については、大都市（東京23区内）、中都市（地方中規模都市：人口密度が中／人口規模が20～30万人程度）、郡部（町村部：人口密度が低／人口規模が1～5万人程度）の3地域区分を設定してサンプルを抽出した。

※高校生については、上記に準じる地域区分〔大都市（東京23区内）、中都市（地方中規模都市相当）、郡部（町村部相当）〕に加え、学校の偏差値層を考慮してサンプルを抽出した。対象校は全日制普通科（理数科含む）。

※調査対象校はすべて公立。

◆ 調査項目 パソコンの利用有無、パソコンの利用内容、パソコンの利用についての意識、携帯電話の所有有無、携帯電話の利用頻度、携帯電話の利用機能、携帯電話の利用についての意識、携帯電話の利用で気にしていること、対面場面での携帯電話利用に対する意識、ブログ・掲示板やプロフの利用、テレビゲームについての意識、コミュニケーション手段の選択、学習手段の選択、科学技術観 など

※本調査は、携帯電話やパソコンなどのICTメディアにかかわる実態や意識を探ることが主テーマであるため、調査設計上、それらの利用者のみが回答する設問が多くなっている。調査結果を正確に読みとるうえでは、回答の母体を正確に把握することが欠かせないため、本速報版では、各頁の上部に「全員」「携帯電話所有者」「パソコン利用者」との形で回答母体を示した。

● 目次

調査概要	2	II パソコンの利用	
基本属性	3	1. 家庭でのパソコンの利用率	10
		2. パソコンの利用内容	11
I 携帯電話の利用		III ICT全般に関する意識と実態	
1. 携帯電話の所有率	4	1. 対面場面での	
2. 携帯電話の利用頻度	5	携帯電話利用に対する意識	12
3. 携帯電話の利用機能	6	2. ブログ・掲示板やプロフの利用	13
4. 携帯電話の利用についての意識	7	3. コミュニケーション手段の選択	14
5. 携帯電話の利用で気にしていること	8	4. 科学技術観	15
6. 親のかかわり	9		

● 基本属性

◆ サンプル数

					(人)
小学生 (16校)	小4生	小5生	小6生	無回答・不明	計
大都市	292	270	388	9	959
中都市	364	357	369	4	1,094
郡部	341	314	436	2	1,093
計	997	941	1,193	15	3,146
中学生 (13校)	中1生	中2生	中3生	無回答・不明	計
大都市	349	318	341	3	1,011
中都市	353	334	323	7	1,017
郡部	421	458	385	6	1,270
計	1,123	1,110	1,049	16	3,298
高校生 (11校) ※普通科(理数科含む)	高1生	高2生	無回答・不明	計	
大都市	844	551	16	1,411	
中都市	580	588	4	1,172	
郡部	673	559	8	1,240	
計	2,097	1,698	28	3,823	

- 性別
 - 小学生…………男子：50.3% 女子：49.4% 無回答・不明：0.4%
 - 中学生…………男子：51.1% 女子：48.4% 無回答・不明：0.5%
 - 高校生…………男子：45.0% 女子：54.2% 無回答・不明：0.8%
- きょうだい
 - 小学生…………いる：87.3% いない：12.3% 無回答・不明：0.4%
 - 中学生…………いる：88.3% いない：11.4% 無回答・不明：0.4%
 - 高校生…………いる：89.0% いない：10.3% 無回答・不明：0.7%

■ 本調査の対象校（小学校16校、中学校13校、高校11校）の特性

本調査では、調査対象校の特性を把握するため、各校に対して、ICTメディアの設置や基本的な取り組み状況に関する調査を実施した（回答は、校長、教頭・副校長、もしくは教務、進路指導、情報教育の主任の教員に依頼）。ただし、これは本調査の対象校のみの結果であり、全国的な傾向を示すものではない。

- 児童・生徒の学校への携帯電話持ち込みルールの有無
 - 小学校 持ち込み禁止：11校 条件付き許可：2校 特に禁止はしていない：3校
 - 中学校 持ち込み禁止：11校 条件付き許可：2校 特に禁止はしていない：0校
 - 高校 持ち込み禁止：1校 条件付き許可：6校 特に禁止はしていない：4校
- ここ3年以内でのICTに関連した研究指定の実績（ICTを活用した教科活動や情報教育など）
 - 小学校 ある：1校 ない：15校
 - 中学校 ある：1校 ない：12校
 - 高校 ある：0校 ない：11校
- 教育用パソコン1台あたりの児童・生徒数（全校児童・生徒数／教育用パソコンの台数）

※今回の調査対象校は、すべて教育用パソコンがある学校。

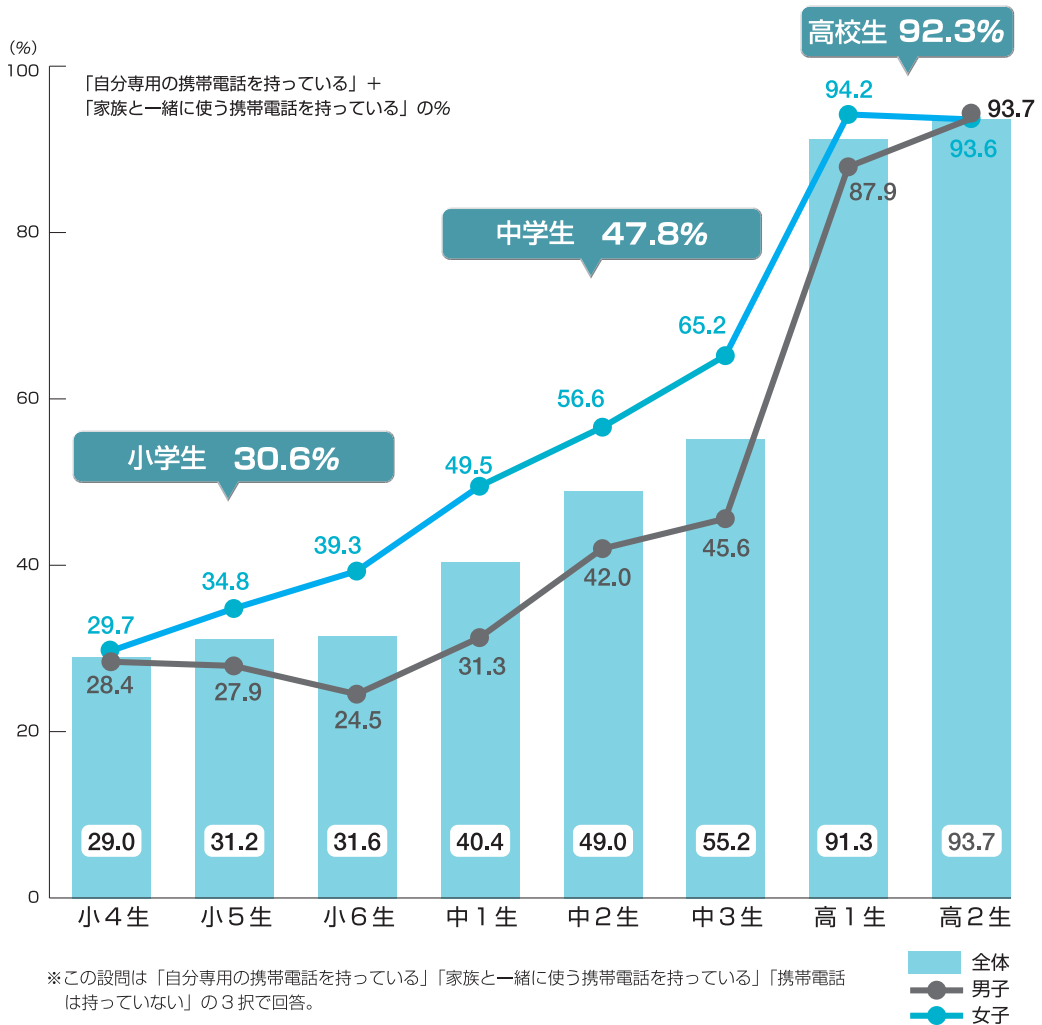
	~5.0 人/台	5.1~10.0 人/台	10.1~15.0 人/台	15.1~20.0 人/台	20.1~25.0 人/台	25.1~ 人/台
小学校 (16校)	1	4	2	3	2	4
中学校 (13校)	4	9	0	0	0	0
高校 (11校)	1	1	3	5	1	0

1 携帯電話の所有率

携帯電話の所有率は、小学生が3割、中学生が5割、高校生が9割。小学生から中学生にかけて、男女差が大きい。

Q あなたは、携帯電話を持っていますか。

図 1-1 携帯電話の所有の有無



携帯電話の所有率は、「自分専用の携帯電話を持っている」と「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」をあわせて、小学生で30.6%、中学生で47.8%、高校生で92.3%。学年別にみると、とくに中学生の間で学年があがるにつれて増加し、

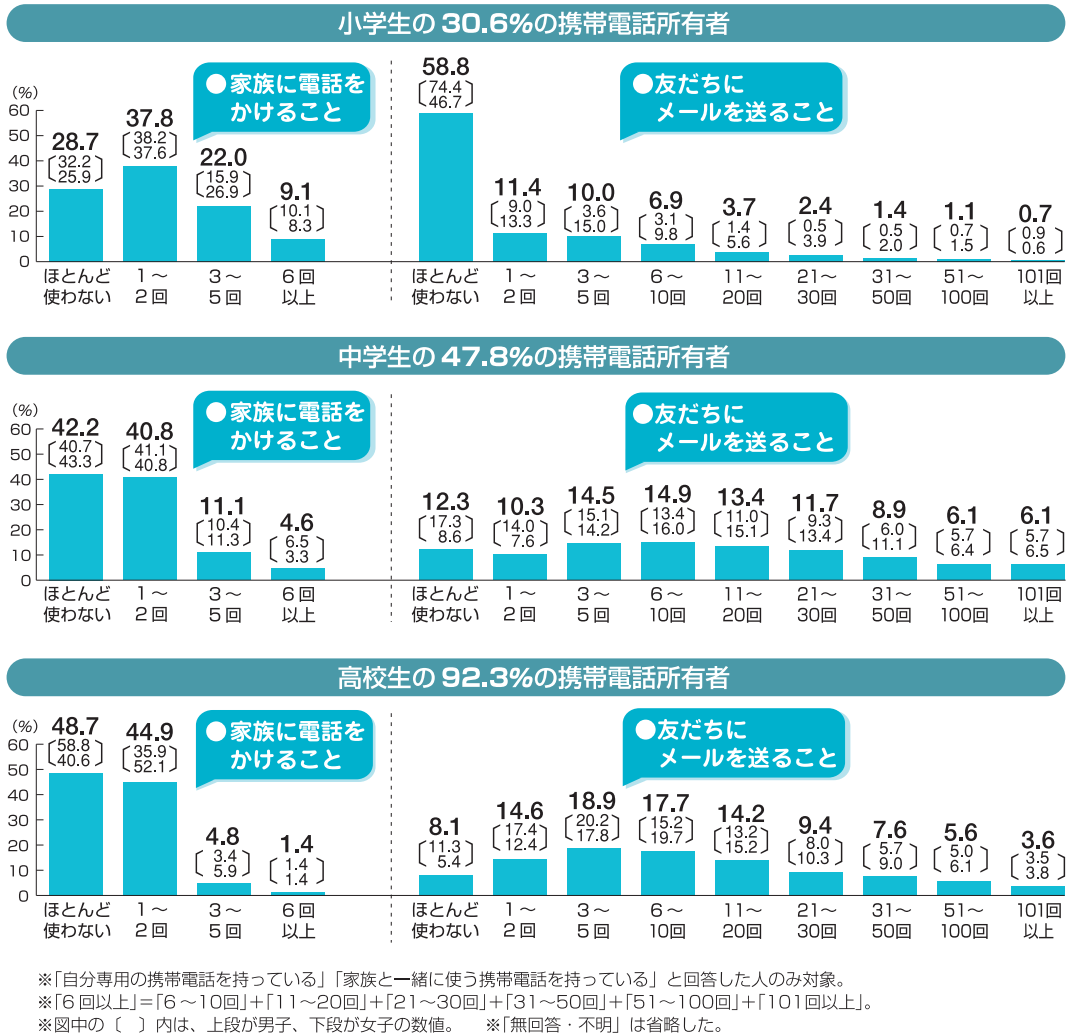
中3生と高1生の間でもっとも大きく跳ね上がる。性別にみると、女子のほうが男子よりも所有率が高まる時期が早く、中学生では15~20ポイント程度も女子のほうが高い。

2 携帯電話の利用頻度

小学生は「家族への電話」が多いのに対し、中・高校生は「友だちにメール」が多い。全般に女子の利用が活発。

Q あなたは、1日のうちで携帯電話をどれくらい使いますか。

図 1-2 携帯電話の利用頻度



携帯電話の所有者に、1日あたりの電話やメールの頻度をたずねた。小学生では「友だちにメールを送ること」について「ほとんど使わない」が58.8%と多く、「家族に電話をかけること」で「ほとんど使わない」は28.7%にとどまる。一方、

中・高校生では「友だちにメールを送ること」について「ほとんど使わない」との回答は1割程度であり、使い方が異なる様子が見えてくる。また性別で見ると、全般に女子のほうが活発に利用しているようだ。

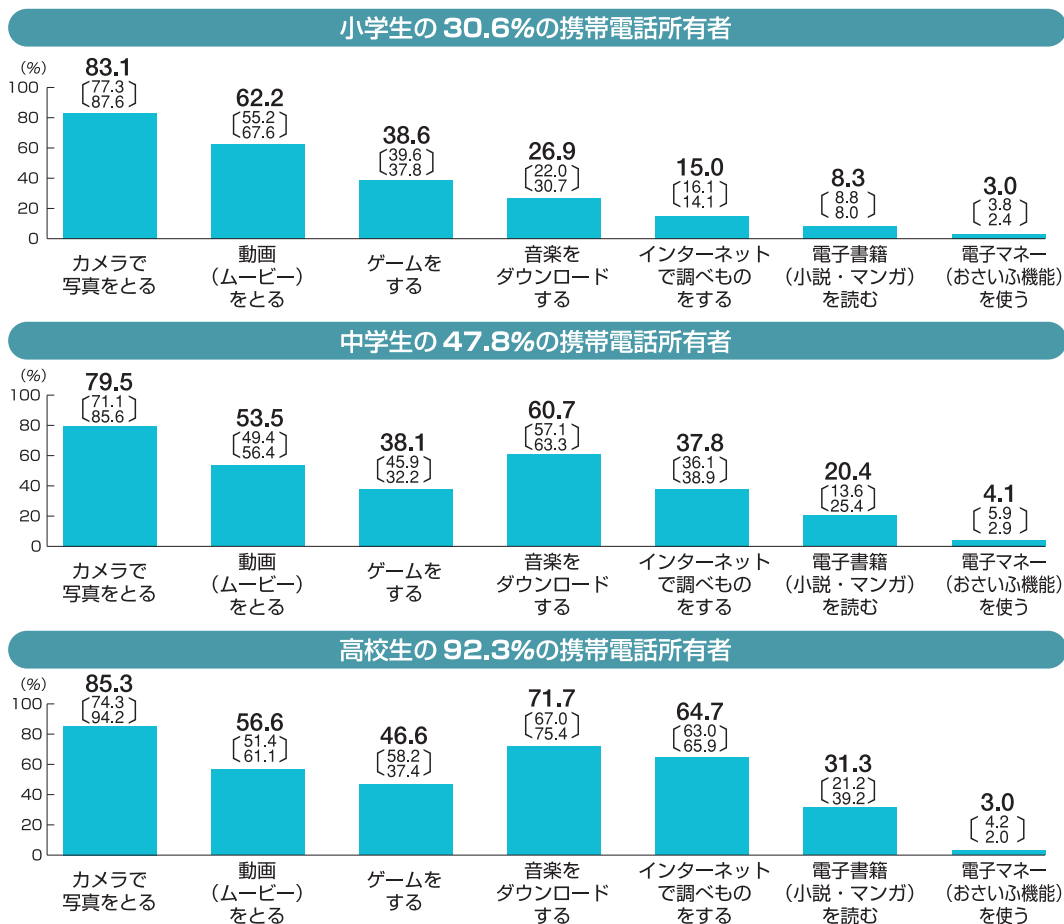
3 携帯電話の利用機能

いずれの学校段階でも「カメラで写真をとる」がもっとも多い。
また、利用機能には男女差がみられる。

Q あなたは、携帯電話で次のようなことをしますか。

図 1-3 携帯電話の利用機能

「する」の%



※「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

※図中の〔 〕内は、上段が男子、下段が女子の数値。

携帯電話の利用機能をたずねたところ、学校段階を問わず「カメラで写真をとる」がもっとも多く、所有者の8割前後であった。「動画(ムービー)をとる」も一貫して5~6割である。これに対して、「音楽をダウンロードする」や「インターネットで調べものをする」は、学校段階があがるにつ

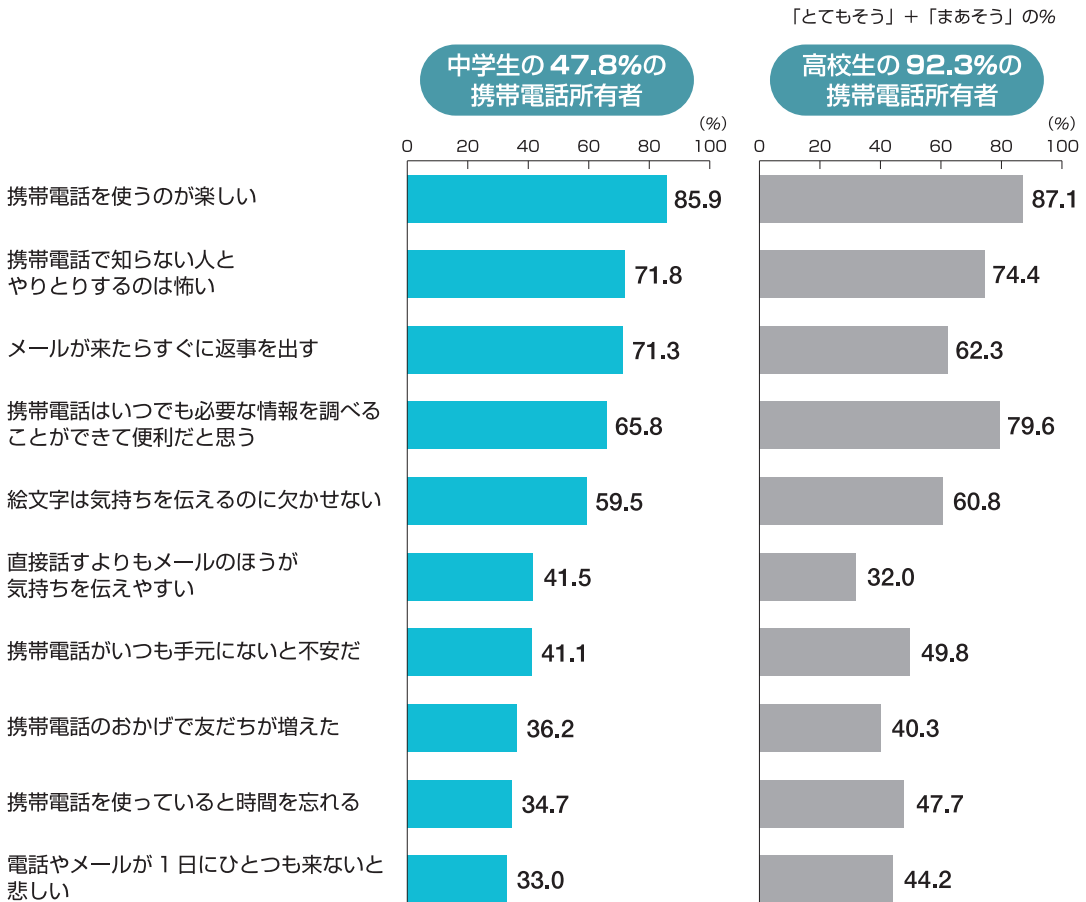
れて「する」という回答が顕著に増加する。また性別で見ると、写真や動画、音楽ダウンロード、さらに中・高校生では電子書籍は女子のほうが「する」割合が高い。これに対してゲームは、とくに中・高校生では男子のほうが使っているようだ。

4 携帯電話の利用についての意識

「使うのが楽しい」は中・高校生とも携帯電話所有者の9割弱。
「知らない人とやりとりするのは怖い」は7割。

Q 携帯電話について、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

図 1-4 携帯電話の利用についての意識



※「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。
※この設問は、中・高校生のみになすねた。

携帯電話の所有者に対して、利用にかかわる意識をたずねた。中・高校生ともに、9割弱が「携帯電話を使うのが楽しい（とてもそう+まあそう）」と感じている一方で、7割が「携帯電話で知らない人とやりとりするのは怖い」と思っている。「携帯電話はいつでも必要な情報を調べることができ

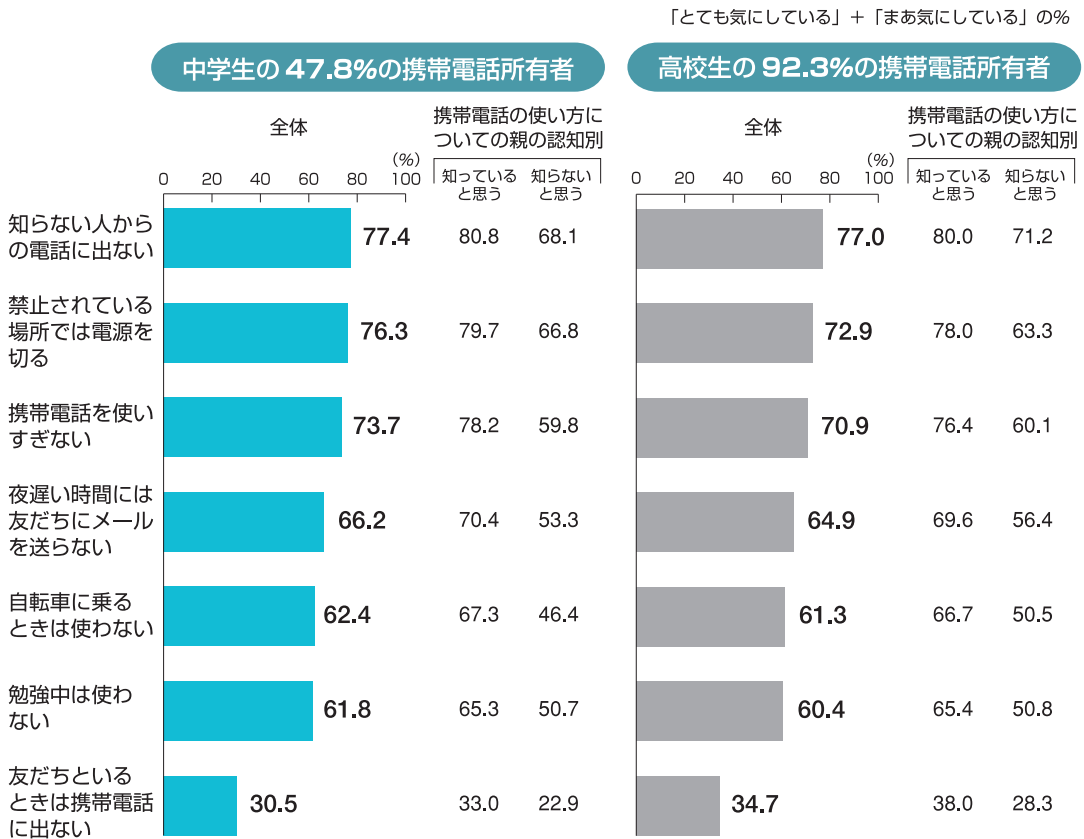
て便利だと思う」は、中学生では65.8%なのに対して、高校生では79.6%と高くなる。また、中・高校生とも6割程度が「絵文字は気持ちを伝えるのに欠かせない」と回答しており、携帯電話を用いたコミュニケーションの特徴の一端が垣間見られる。

5 携帯電話の利用で気にしていること

「知らない人からの電話に出ない」ことを気にしているのは、
中・高校生とも携帯電話所有者の8割弱。

Q 携帯電話の使い方について、あなたは次のようなことをどれくらい気にしていますか。

図1-5 携帯電話の利用で気にしていること



※「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

※「知っていると思う」は、携帯電話の使い方についての親の認知の設問（次頁の図1-7参照）で、「よく知っていると思う」「まあ知っていると思う」と回答した人。「知らないと思う」は、「あまり知らないと思う」「まったく知らないと思う」と回答した人。

※この設問は、中・高校生のみにしたすねた。

中・高校生の携帯電話の所有者が、使い方について「気にしている（とても+まあ）」という回答がもっとも多いのは「知らない人からの電話に出ない」で、中学生で77.4%、高校生で77.0%だった。次いで、「禁止されている場所では電源を切る」「携帯電話を使いすぎない」も7割台で続いており、使用場所や方法は気にしているようだ。

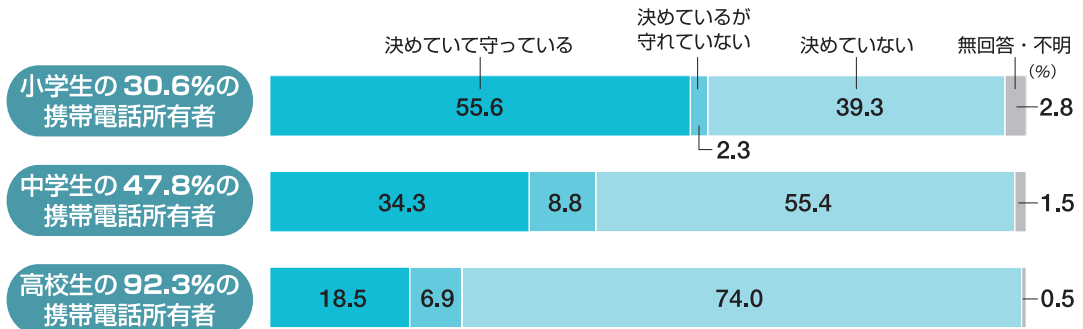
一方でもっとも少ないのは「友だちといるときは携帯電話に出ない」で、中・高校生ともに「気にしている」のは3割程度だった。さらに、携帯電話をどのように使っているか、親が知っていると思うかによって分けてみたところ（次頁の図1-7参照）、親が「知っていると思う」中・高校生のほうがどの項目でも「気にしている」という回答が多かった。

6 親のかかわり

携帯電話所有者のうち、親と使用ルールを決めていて守っているのは、小学生で半数強、中学生で3人に1人、高校生で5人に1人。

Q ▶ あなたは、携帯電話の使い方について、親とルール(約束事)を決めていますか。

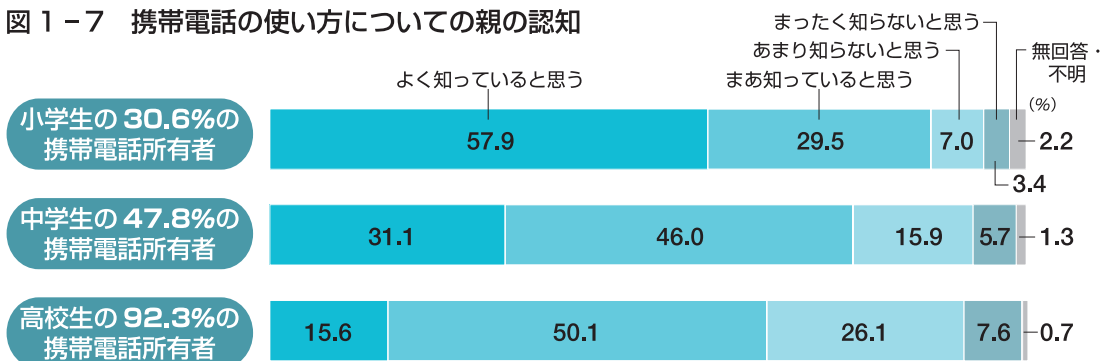
図 1-6 携帯電話の使い方についてのルールの有無



※「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

Q ▶ あなたの親は、あなたがどのように携帯電話を使っているかを知っていると思いますか。

図 1-7 携帯電話の使い方についての親の認知



※「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

子どもの携帯電話の利用に対して、親はどのようにかかわっているのだろうか。まず、使い方のルール(約束事)についてみると、ルールを「決めていて守っている」と回答したのは、小学生では携帯電話所有者のうち55.6%、中学生で34.3%、高校生で18.5%だった。次いで、携帯電話をど

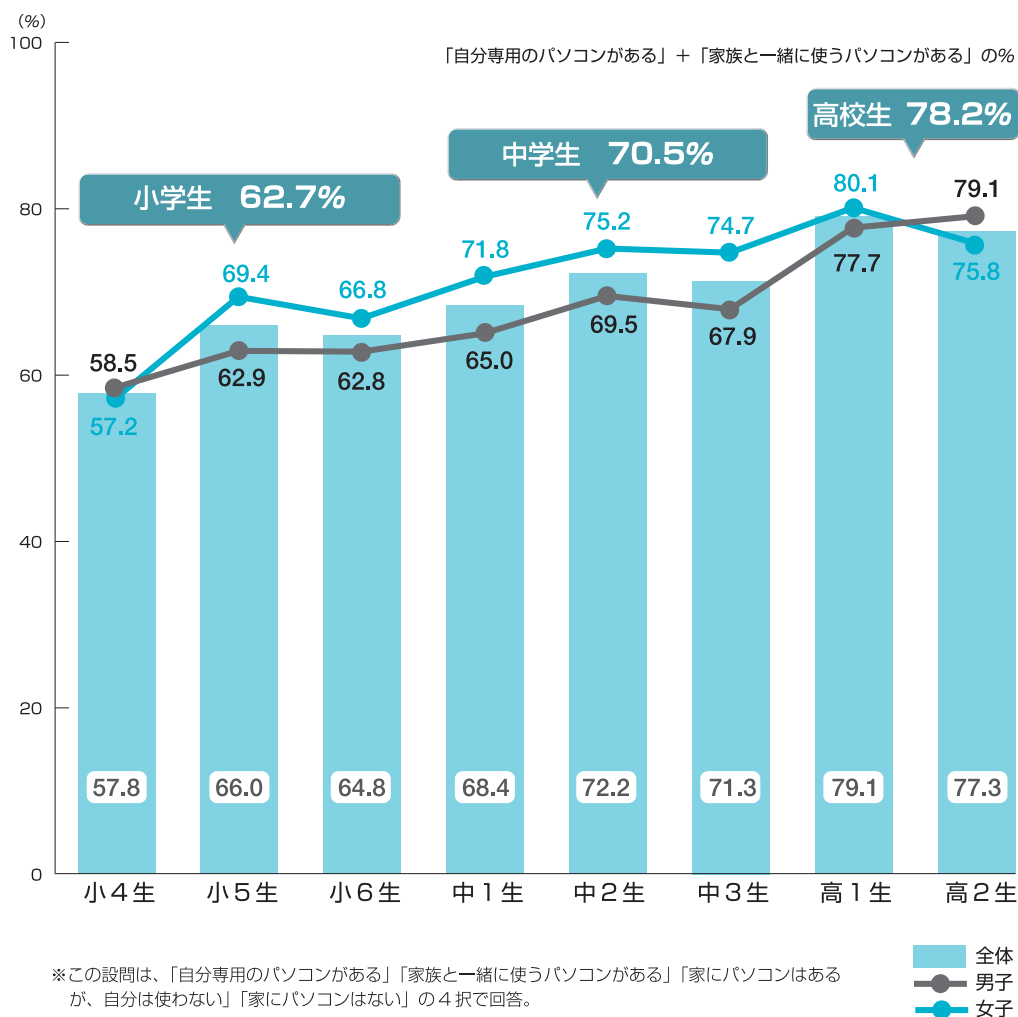
のように使っているかについて、親が知っていると思うかどうかをたずねたところ、小学生では携帯電話所有者のうち87.4%、中学生では77.1%、高校生では65.7%が「知っていると思う(よく+まあ)」と回答した。

1 家庭でのパソコンの利用率

家庭でのパソコンの利用率は、小学生が6割、中学生が7割、高校生が8割。

Q あなたの家にはパソコンがありますか。

図2-1 家庭でのパソコン利用の有無



どれくらいの子どもが、家庭でパソコンを利用しているのだろうか。「自分専用のパソコンがある」と「家族と一緒に使うパソコンがある」をあわせ

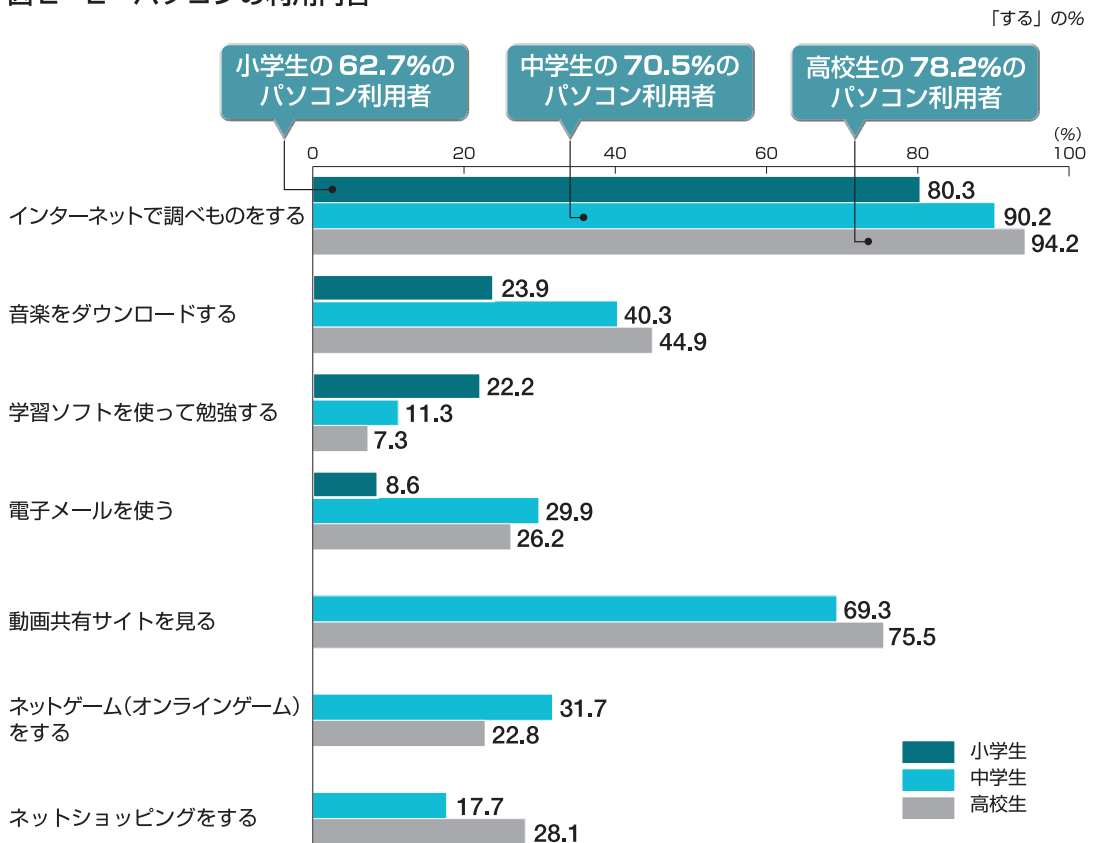
たパソコンの利用率は、小学生で62.7%、中学生で70.5%、高校生で78.2%だった。

2 パソコンの利用内容

小学生のパソコン利用者では8割、中・高校生では9割が、「インターネットで調べものをする」と回答。また、中・高校生の「動画共有サイトを見る」という回答も7割前後と多い。

Q あなたはパソコンで次のようなことをしますか。

図2-2 パソコンの利用内容



※「自分専用のパソコンがある」「家族と一緒に使うパソコンがある」と回答した人のみ対象。

※「動画共有サイトを見る」「ネットゲーム(オンラインゲーム)をする」「ネットショッピングをする」は、中・高校生のみにたずねた。

パソコンの利用者に、パソコンでどのようなことを行っているかたずねたところ、学校段階を問わず「インターネットで調べものをする」という回答がもっとも多く、小学生ではパソコン利用者のうちの80.3%、中学生では90.2%、高校生では94.2%にのぼった。中・高校生のみにとずねた

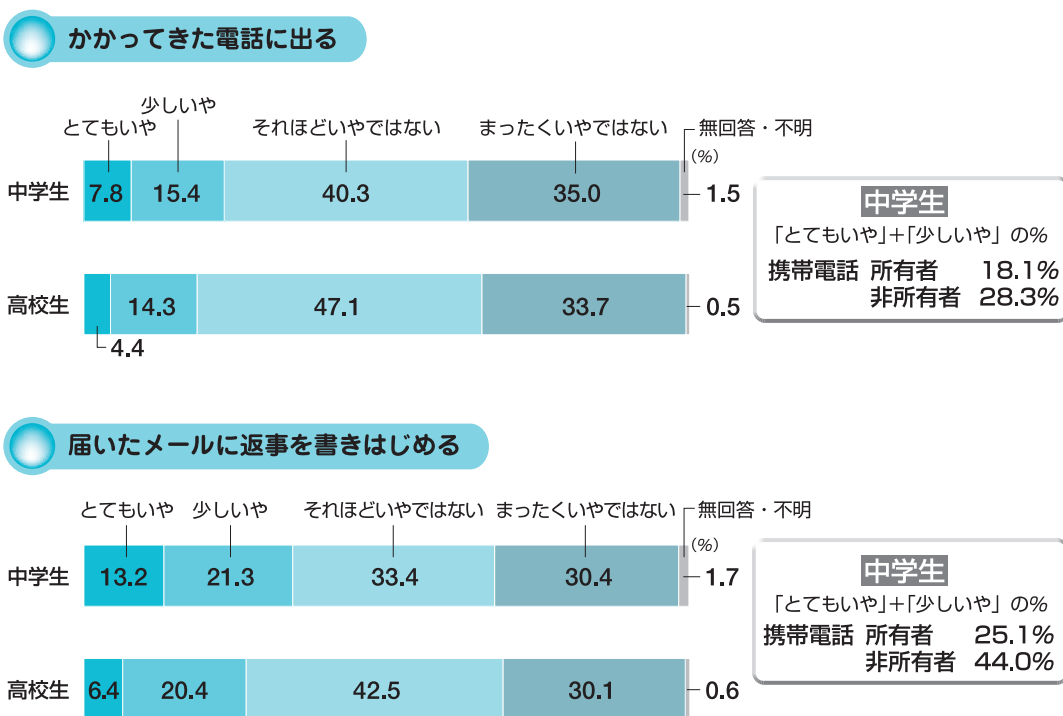
「動画共有サイトを見る」も、中学生で69.3%、高校生で75.5%と多い。また、中学生ではパソコン利用者の17.7%、高校生では28.1%が「ネットショッピングをする」とも回答している。一方、「学習ソフトを使って勉強する」については、学校段階があがるにつれて減少する。

1 対面場面での携帯電話利用に対する意識

友だちと一緒にいるとき、友だちが「かかってきた電話に出る」のが「いや」と回答したのは、中・高校生ともに2割程度。「届いたメールに返事を書きはじめる」ことが「いや」という回答は3割程度。

Q あなたと一緒にいるときに、友だちが携帯電話で次のようなことをしたら、あなたはどのように感じますか。

図3-1 対面場面での携帯電話利用に対する意識



※携帯電話の「所有者」は、「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人。
「非所有者」は、「携帯電話は持っていない」と回答した人。
※この設問は、中・高校生のみにとすねた。

自分と一緒にいるときに、友だちが携帯電話を使ったとしたら、子どもたちはどのように感じるのだろうか。友だちが「かかってきた電話に出る」、友だちが「届いたメールに返事を書きはじめる」という2つの場面を想定して回答してもらった。その結果、友だちが「かかってきた電話に出る」ことが「いや（とても+少し）」と回答したのは、中学生で23.2%、高校生で18.7%だった。また、

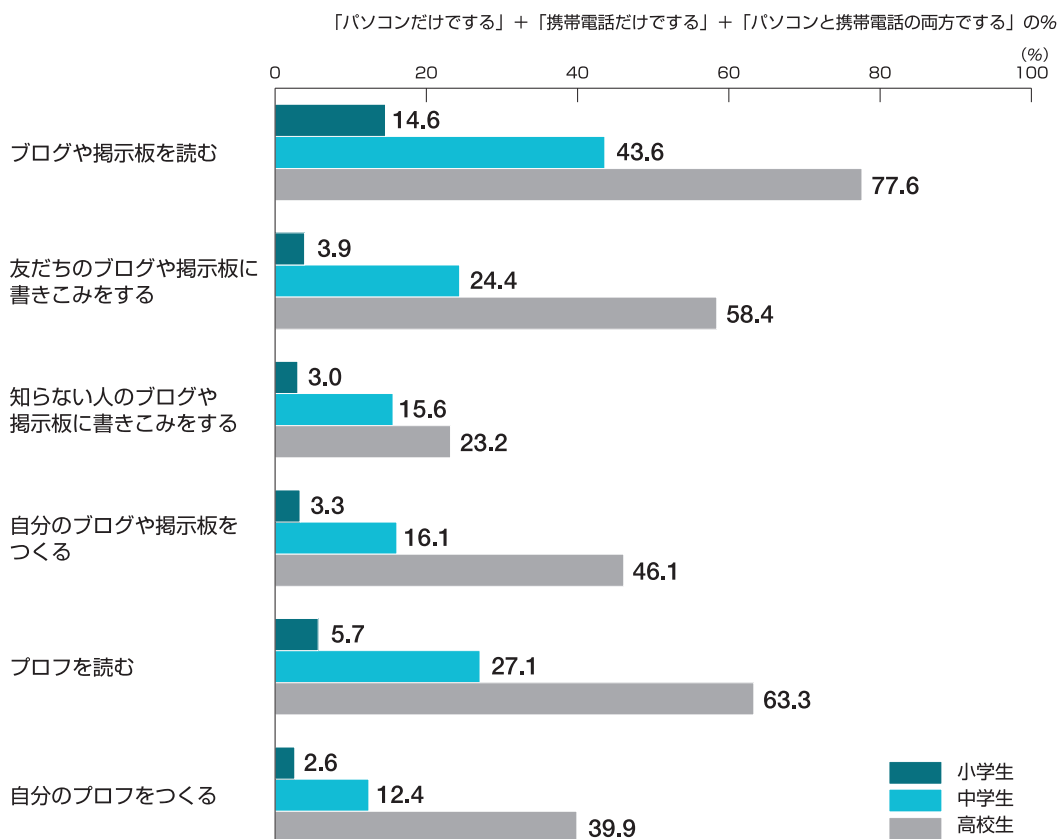
「届いたメールに返事を書きはじめる」ことについては、中学生で34.5%、高校生で26.8%で、いずれも「いや」という回答は少数派だった。さらに、携帯電話の所有率が5割程度である中学生について、携帯電話の所有者と非所有者に分けて意識の違いをみたところ、2つのいずれの場面についても、所有者のほうが非所有者よりも、「いや」と感じる割合が低いことがわかった。

2 ブログ・掲示板やプロフの利用

「ブログや掲示板」「プロフ」の利用は、学校段階があがるにつれて顕著に増加する。

Q あなたは、次のようなことをすることがありますか。

図3-2 ブログ・掲示板やプロフの利用



※この設問は、「しない」「パソコンだけです」「携帯電話だけです」「パソコンと携帯電話の両方です」「わからない」の5択で回答。

「ブログや掲示板」「プロフ」について、「読む」「書きこむ」「つくる」といった利用のしかたに分けて、行っているかどうかをたずねた。これによると、「ブログや掲示板を読む」が、どの学校段階でももっとも多く、小学生で14.6%、中学生で43.6%、高校生で77.6%だった。また、これ以外のいずれの項目についても、学校段階があがる

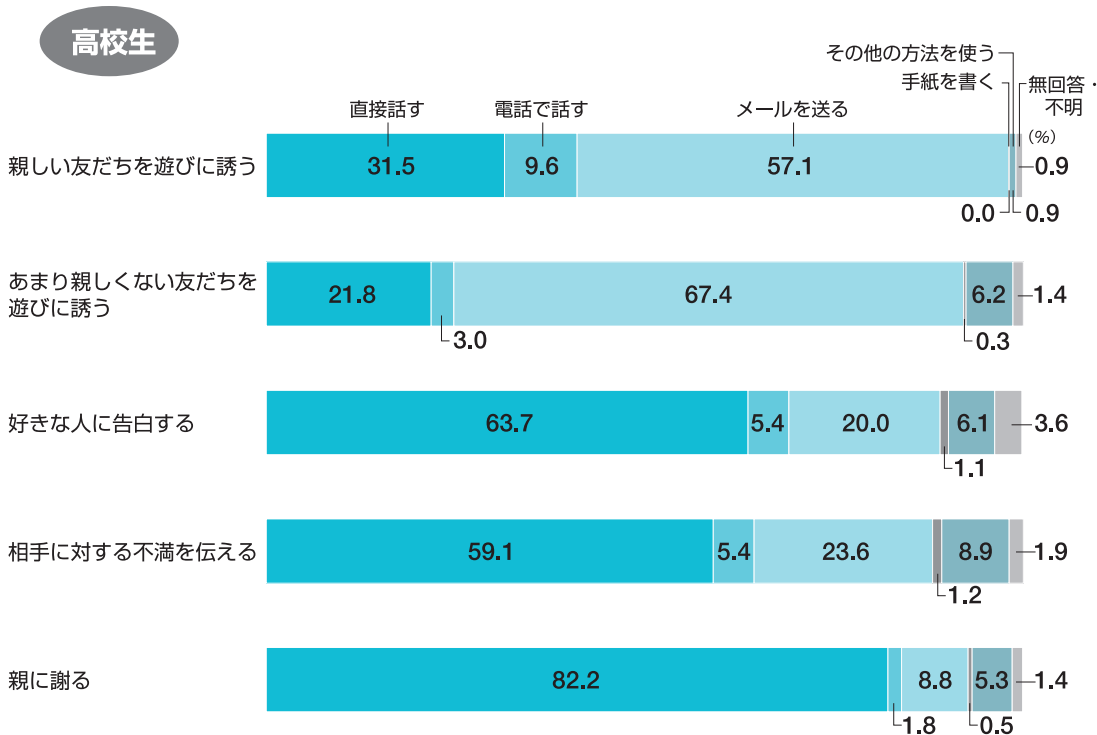
につれて、行っている割合は顕著に増加する。また、ブログや掲示板の利用のしかたについては、学校段階を問わず、「ブログや掲示板を読む」>「友だちのブログや掲示板に書きこみをする」>「知らない人のブログや掲示板に書きこみをする」の順になっている。

3 コミュニケーション手段の選択

「友だちを遊びに誘う」場合は「メール」、「好きな人に告白する」「相手に対する不満を伝える」場合は「直接話す」という高校生が多い。

Q あなたは次のようなことをするとしたら、どのような方法を使うと思いますか（もっともよく使うと思う方法を1つだけ選択）。

図 3-3 コミュニケーション手段の選択



※この設問は、中・高校生のみにとすねた。なお、ここでは高校生の結果のみを示した。

いくつかのコミュニケーションの場面を設定して、もっともよく使うと思う方法をそれぞれ1つずつだけ選んでもらった。高校生の結果をみると、「親しい友だちを遊びに誘う」では57.1%、「あまり親しくない友だちを遊びに誘う」では67.4%が「メールを送る」と回答しており、他の方法よりも

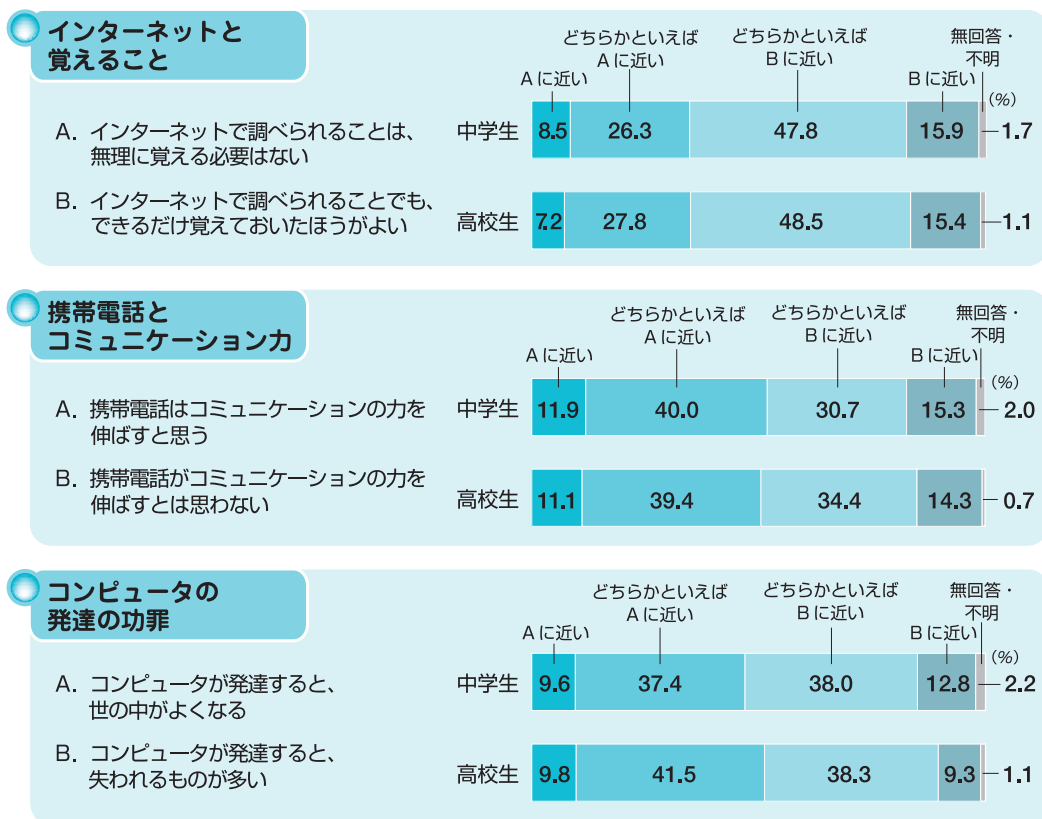
選択率が高かった。一方、「好きな人に告白する」では63.7%が、「相手に対する不満を伝える」では59.1%が、「親に謝る」では82.2%が「直接話す」と回答しており、もっとも多く選択された。場面に応じて、コミュニケーションの方法を使い分けていることがわかる。

4 科学技術観

携帯電話がコミュニケーションの力を伸ばすと思うか、コンピュータが発達すると世の中がよくなると思うかについては、中・高校生ともに意見が二分した。

Q 次のような2つの意見について、あなたの考えに近いものはどちらですか。

図3-4 科学技術観



携帯電話やインターネットなどの科学技術の発達や普及について、子どもたちはどのように感じているのだろうか。2つの相反する考え方を提示して、自分の考えに近いと思うほうを選択してもらった。「インターネットと覚えること」の関係については、中・高校生ともに「A. インターネットで調べられることは、無理に覚える必要はない」

より、「B. インターネットで調べられることでも、できるだけ覚えておいたほうがよい」という回答のほうが多かった。一方、「携帯電話がコミュニケーションの力を伸ばすと思うかどうか」「コンピュータが発達すると世の中がよくなるか、失われるものが多いか」については、中・高校生とも、意見が二分した。

Benesse® 教育研究開発センター

子どものICT利用実態調査

—小・中・高校生の携帯電話やパソコン利用の意識・実態を探る—

調査企画・分析メンバー

中川 一史	メディア教育開発センター教授
酒井 朗	大妻女子大学教授
林 向達	椋山女学園大学非常勤講師
木村 文香	江戸川大学専任講師
新井 健一	Benesse教育研究開発センター センター長
木村 治生	Benesse教育研究開発センター 教育調査室室長
朝永 昌孝	Benesse教育研究開発センター 研究員
佐藤 暢子	Benesse教育研究開発センター 研究員
野村 徳之	Benesse教育研究開発センター 研究員
鈴木 久	Benesse教育研究開発センター 学習・メディア研究室室長
和気 竜也	Benesse教育研究開発センター 研究員
野澤亜伊子	Benesse教育研究開発センター 研究員
秋山 大志	Benesse教育研究開発センター 研究員
谷内 正裕	Benesse教育研究開発センター 研究員

※所属・肩書きは、2009年2月時点のものです。

「子どものICT利用実態調査報告書」2009年5月刊行予定

本調査の詳細な分析をまとめた報告書（200頁程度、頒価1,000円）を、2009年5月に刊行する予定です。報告書をご希望の方は、Benesse教育研究開発センターのWEBサイトの「調査・研究データ→報告書の申し込み」より、もしくはお電話で直接お申し込みください。発刊次第、お届けいたします。なお、この報告書は、書店ではお求めになれません。

Benesse教育研究開発センターのWEBサイトのご案内

Benesse教育研究開発センターで実施している各種調査結果は、以下のWEBサイトにてご覧いただけます。

Benesse教育研究開発センター >> <http://benesse.jp/berd/>